

2007年7月 機械部会例会講演会レジュメ

開催日時：7月13日（金）18:05～18:40

出席者数：62名

講演要約

- (1) 名前 江口正芳氏（機械）
 (2) 演題 「日本の自動車産業の将来は？」
 (3) 講演年月日 2007年7月13日
 (4) 所属 江口技術士事務所 所長
 (5) 所在地 〒247-0035 神奈川県横浜市栄区桂台西1-45-7-725
 (6) 電話 045-892-6752
 (7) E-mail meguchi@d6.dion.ne.jp

要約(日本語)

日本自動車産業の問題点と課題への対応検討をすることで、将来の自動車産業を予測する。

1. 自動車産業の問題点
 - 1) 地球環境への対応が必須：燃費向上の更なる促進 - 画期的 CO2 排出量削減
 - 2) 自動車生産台数の推移：国内生産台数の 50%以上が輸出されている
 - 3) 品質問題の多発：リコール台数 700 万台弱/年
 - 4) 交通事故の増加：死者数は減少しているが、負傷者数は減少していない。高齢者の負傷が多い。
 - 5) 低価格車の生産開始：中国、インド等の自動車生産で、低価格車が生産販売される。
 - 6) 若者の自動車離れ：IT 対応等生活重視の視点が変化している
2. 自動車メーカーの課題
 - 1) SMP (Sustainable Mobility Project) の7つの目標：健康被害排出物の削減 温室効果ガス排出量の抑制 「モビリティ格差」の縮小、モビリティ機会の保護・向上 他
 - 2) 「環境知能」の時代に推移：アルコール濃度が高いと発進させない車、法定速度以上で走れない車他
 - 3) トヨタ自動車渡辺社長の願い：「乗ると健康になる車」「走れば環境に良くなる車」他
 - 4) 顧客満足、顧客感動への対応：潜在的な顧客要望の発掘（顧客感動の付与）と開発
 - 5) 人間生活技術戦略：人間生活により役に立つモビリティの目標を明確化
 - 6) モビリティマネジメント：個人モビリティと公共交通機関の最適な関係構築 3. 地球環境への影響と対策
 - 1) SMP の目標に近づくと、世界の自動車の生産台数、保有台数は現状の倍以上になる
 - 2) 倍の台数になったときの CO2 排出量を現在と同じにするためには、50%以上の削減が必要
 - 3) CO2 排出量を 50%以上削減するには、燃料電池車、電気自動車への転換が有力
4. 日本の自動車産業の優位性
 - 1) 自動車は「擦り合わせ型アーキテクチャの製品」であり、日本の企業風土に適した製品
 - 2) 自動車のアーキテクチャがオープン化する条件：ホイール一体型のモータで駆動する燃料電池自動車
車や電気自動車が製品の主体になると、擦り合わせ型アーキテクチャの必然性が低下する
5. 日本の自動車産業の将来は？
 - 1) 環境のグローバル対応：液体燃料が枯渇してエネルギーは電気主体？ 電気自動車への全面移行？

要約(英語)

Name : EGUCHI Masayoshi Title : **The future of the automotive industry of Japan**

The automotive industry of Japan has various problems. When the target of SMP (Sustainable Mobility Project) is achieved, the number of production and the population of the cars become twice as that of present population or even more. An epoch-making decrease of the amount of the CO2 exhaust from the car is needed for the global warming prevention from the stand point of the global environment. Conversion into the fuel cell vehicles and the electric vehicles is forecast as an effective counter measure. The clarification of the automotive industry of Japan in the future becomes possible because it foresees current problems and the counter measures.